

# 陸の水

====No.82====

日本陸水学会東海支部会

ニュースレター（2019年3月29日）

発行：日本陸水学会東海支部会

連絡先：〒501-6021 岐阜県各務原市

川島笠田町官有地無番地

国立研究開発法人土木研究所

自然共生研究センター

末吉 正尚

Tel:0586-89-6036、Fax: 0586-89-6039

E-mail: [m-sueyoshi55@pwri.go.jp](mailto:m-sueyoshi55@pwri.go.jp)

## 目次

- 2018年度「第21回研究発表会」の報告（p. 1～3）
- 2018年度「第22回総会」の報告（p. 4～9）
- 第33回東海陸水談話会報告（p. 9～10）
- 2019年度「研究助成」の募集案内（p. 11）
- 「陸の水論文集 2019/2020年」への投稿のご案内（p. 12）
- 「陸の水論文集 2019/2020年」発行に向けてのご寄付のお願い（p. 13）
- お知らせ 会費納入（p. 14）
- 会長・幹事退任のあいさつ、新会長・幹事就任のあいさつ（p.15～18）
- 編集後記（p.19）

## 2018年度「第21回研究発表会」の報告

末吉正尚（土木研究所自然共生研究センター）

日時：2019年2月16（土）～17日（日）

場所：蒲郡市生命の海科学館

2019年2月16日～17日にかけて、愛知県の三河湾に面した海の街・蒲郡市の「生命の海科学館」において、陸水学会東海支部会第21回研究発表会が行われました。参加者は67名、発表件数は42題（学生発表29題）と、昨年度の30題（学生20題）を大きく上回りました（写真1）。また昨年に引き続き、学生の皆さんを対象とした発表賞の投票もあり、昨年以上に熱のこもった会となりました。1日目の朝から発表を開始しましたが、2日目正午によりやく発表が終わる形となり、会の盛況ぶりがうれしい反面、さらに発表者が増えた場合の日程調整も今後の課題となるかもしれません。

さて、今年度の発表も昨年度と同様に陸水、海洋、森林、人との関わりと多岐にわたりましたが、特に近年、陸水・海洋生態系や人体への影響も懸念されつつあるマイクロプラスチックの実態調査や、アミノ酸安定同位体の分離手法の検討など、現在の潮流に合わせた新たな研究展開も垣間見ることができました。その中で、見事最優秀賞（1名）・優秀賞（5名）に選ばれたのは、名城大学の早川航平さん（最優秀賞）、中部大学の岡田麻衣

さん、名城大学の中根芽莉さん、濱島翼さん、名古屋大学の宮本雅也さん、八木健太郎さんの6名でした（写真2）。発表者が多かったため昨年度よりも2名多い選出となりました。



写真1. 陸水学会東海支部会第21回研究発表会参加者集合写真。

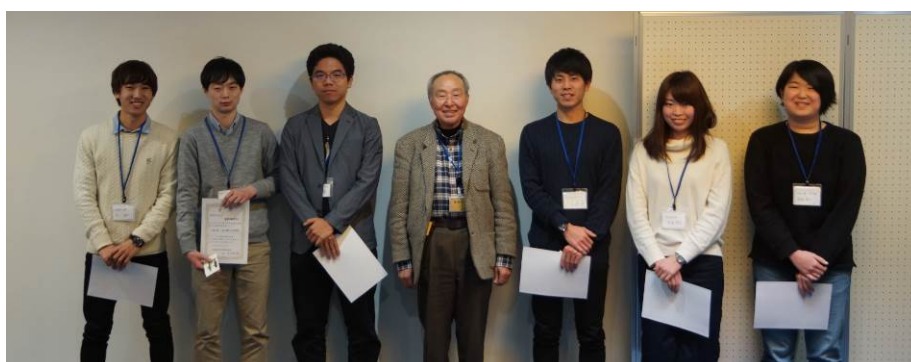


写真2. 陸水学会東海支部会会長と最優秀賞・優秀賞の受賞者6名（左から早川航平さん、宮本雅也さん、濱島翼さん、井上会長、八木健太郎さん、中根芽莉さん、岡田麻衣さん）



写真3. 最優秀賞を受賞した早川さん



写真4. 岐山高校生物部による助成金成果発表

最優秀賞を見事受賞した早川さん（写真3）の研究では、国外外来種カワヒバリガイに寄生する腹口吸虫類の矢作川における実態が示されていました。約1200個体にも及ぶカワヒバリガイの感染状況を調査し、1%以下ではありましたが感染が確認されたようです。琵琶湖の流出河川である宇治川では、第二中間宿主であるコイ科を主とした魚類の大量衰弱が引き起こされており、生態的・経済的に多大な被害が引き起こされることが知られています。矢作川の現状では、そのような大量衰弱が起こる可能性は低いかもしれませんが、今後も継続的に感染状況を確認し、カワヒバリガイや宿主の域外への持ち出し規制などの対策を行うことが重要であると締めくくられていました。

優秀賞を受賞した岡田さん、濱島さんは昨年度に続く連続受賞でした。岡田さんはアユの餌資源改善のための河床清掃手法の効果検証、濱島さんは陸上のツル性植物が魚類の生残率に及ぼす影響評価の研究を発表されました。お二人とも昨年よりもさらに発展した研

究を進めており、今後の活躍が非常に楽しみになる内容でした。中根さんの研究では、愛知県内の河川においてマイクロプラスチックの流下量調査を行い、その組成や流下生物量との相関を明らかにされていました。河川によって汚染起源が若干異なる傾向が示されており、起源に応じてとりうる対策も分けて考える必要があることを痛感しました。宮本さんの研究は、出水攪乱による河床のコケ類の剥離効果を、水流と砂礫の衝突、石自体の転動の3つに分けて検証したものでした。出水攪乱による生物量の減少は、様々な要因が関わっており、実験的にそれらの要因を区別して検証することは、個体の成長や個体群動態を予測するうえで非常に重要です。八木さんの研究は、水害とガスインフラを対象としたものでした。異なる氾濫流量を与えた際の復旧にかかる日数の違いや排水機場を機能させた際の復旧短縮効果など、近年頻発する豪雨災害後のインフラ整備に資する重要な知見が示されていました。

そして、今回の研究発表会では、2017年度助成金研究として岐山高校生物部の皆さんが、成果の発表に来てくれました（写真4）。タイトルは「逆川・岩地川に生息するカワニナの寄生虫に関する研究」です。トビ刺口吸虫と呼ばれるこの寄生虫のセルカリアは、群体では走光性をもつが単体ではばらばらに動くなど、目からうろこが落ちる思いの非常に面白い研究内容でした。ほとんど生態の分かっていない生物の生活環を明らかにするための仮説や、その仮説を検証するための工夫を凝らした実験設定など学ぶものが多い研究でした。次号のニューズレターに報告文として発表要旨を掲載する予定ですので、興味のある方はぜひ目を通してみてください。

発表会・総会後は、生命の海科学館と竹島水族館の見学会となりました。生命の海科学館では、2016年10月に新種認定されたインカクジラの化石（写真5）や進化の履歴が分かる魚類の化石群などが展示されておりました。また、本館館長の山本様には発表会前にご挨拶頂き、夜の懇親会にもご参加いただきました。会場をご提供いただいたことと併せて改めて感謝の意を表させていただきます。竹島水族館は、非常に小規模ながらも、近年来場者数が増加して話題となっている水族館です。その要因の一つがスタッフの手書きによるユニークな魚の紹介文です（写真6）。各魚種の豆知識や飼育の苦労話、変わった海洋生物の食レポなど、見ているだけであつという間に時間が過ぎていきました。

見学会後は、会場の撤収作業をみんなで行って、現地解散となりました。ご参加頂いた皆様本年度の研究発表会はいかがでしたでしょうか？今後も東海支部会を盛り上げ、参加することに意義を感じられるような会にしていきたいと思っておりますので、運営や会の方向性などご意見のある方はいつでもご連絡ください。最後になりますが、宿の予約やプログラムの調整・進行をして頂いた田代さん、発表会場の確保と見学会の行程を組んでくれた戸田さん、そして会場設営をして頂いた役員および参加者の皆様に心から感謝いたします。

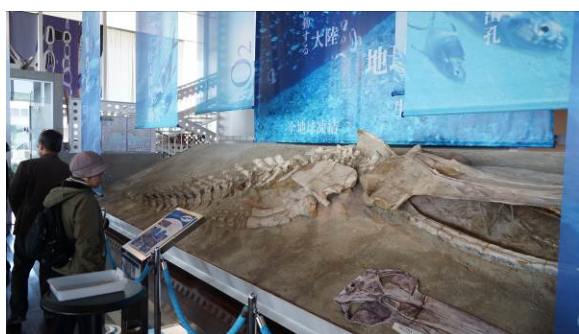


写真5. 新種インカクジラの化石



写真6. 竹島水族館の展示説明

## 2018年度「第22回総会」の報告

日時：2019年2月17日

開催地：蒲郡市生命の海科学館

第22回陸水学会東海支部会総会が、2月17日の研究発表会終了後開催されました。まず、2018年度事業実施報告に先立ち、研究発表会の学生発表者を対象に最優秀賞1名・優秀賞5名の表彰を行いました。その後、担当者から事業・会計等について説明があり、審議・承認されました。

### 総会之次第

1. 開会・会長挨拶：井上祥一郎会長

2. 第21回研究発表会優秀発表者の発表・表彰：田代事業担当

◆最優秀賞（1名）

「矢作川水系における外来種カワヒバリガイの腹口吸虫類による感染状況」

\*早川航平（名城大・理工），浦部美佐子（滋科大・環科），谷口義則（名城大・理工）

◆優秀賞（5名）

「天竜川(静岡県浜松市)のアユ餌資源の改善－特に河床清掃実験の効果・効率について－」

\*岡田真衣（中部大院・応用），喜多村雄一（電源開発），村上哲生（中部大・応生）

「愛知県内14河川におけるマイクロプラスチック汚染の実態」

\*中根芽莉・谷口義則（名城大・理工）

「都市河川のコンクリート護岸に繁茂するツル性植物から供給される陸生昆虫が魚類に及ぼす影響」

\*濱島翼（名城大院・理工），坂本孔毅・徳竹輝・谷口義則（名城大・理工）

「河床付着苔の出水攪乱に対する応答」

\*宮本雅也・椿涼太（名大院・工）

「洪水氾濫が都市ガス供給システムに及ぼす影響」

\*八木健太郎（名大院・工），田代喬（名大・減災セ），戸田祐嗣（名大院・工）

3. 午後の見学会について：戸田幹事

生命の海科学館および竹島水族館

4. 議長の選出

内田朝子会員が推薦・承認され、以降の議事を担当することとなりました。

5. 報告事項

1) 2018年度活動報告（資料1）：田代事業担当

今年度の事業実施状況を次の表にて報告し、承認されました。



| 活動項目       | 当初計画                      | 実施状況                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ニュースレター発行  | 年間 3 号                    | 2018 年 3 月 (No.78)、8 月 (No.79)、12 月 (No.81) に発行。2019 年 3 月に No.82 を発行予定。<br>※No.80 は論文集に割り当て。電子版で配信。                                                                                                                                                                |
| 論文集発行      | 年間 1 号                    | 陸の水第八論文集 (No.80) は 2018 年 11 月発行。                                                                                                                                                                                                                                   |
| サマースクール    | 夏 1 回実施                   | 2018 年 8 月 25 日、26 日に浜松市で実施。<br>※陸の水 No. 81 に報告                                                                                                                                                                                                                     |
| 談話会        | 年 2 回実施                   | ■第32回談話会 10/3 (水) 18:00~20:00<br>宮川幸雄氏 (土研共生セ) : 付着藻類の管理を目的とした川底への土砂供給 (陸の水 No. 81 に報告) ※場所: 名大減災館<br>■第33回談話会 1/25 (金) 18:00~20:00<br>谷口義則氏 (名城大理工) : なぜ日本の川では養殖イワナを放流し続けるのか? ~持続可能な遊漁資源管理を考える~ (陸の水 No. 82 に報告予定) ※場所: 愛工大本山キャンパス<br>土木学会継続教育 (CPD) 制度 (2.0単位) 認証 |
| 見学会        | 年 1 回実施                   | ■研究発表会・総会終了後に予定~蒲郡市                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 助成金        | 15 万円以内で<br>5 件まで         | 2 件の応募。厳正な審査の結果、今回は 2 件に対し総額 10 万円の助成を行うことに決定。<br>※陸の水 No. 79 に報告                                                                                                                                                                                                   |
| 広報・学会公式 HP |                           | <a href="http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/">http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/</a> に開設。活動状況・予定など随時更新中。<br>Facebook による広報は試行中。ML は運用中。                                                                                                                              |
| 総会・研究発表会   | 2 月に実施                    | 2019 年 2 月 16,17 日に実施 (愛知県蒲郡市)。<br>※前回研究発表会のプログラム・要旨を web 公開。                                                                                                                                                                                                       |
| 論文集販売      |                           | 在庫の多いバックナンバーを 1 冊 2,000 円で頒布。                                                                                                                                                                                                                                       |
| 教科書販売      | 『身近な水の<br>環境科学・測定<br>実習編』 | 1 冊定価 2,700 円 (税別) を 2,500 円で販売。                                                                                                                                                                                                                                    |
| 学生発表賞      |                           | 研究発表会終了後に、優秀発表者を表彰。<br>※前回研究発表会 (対象者 20 名) では、最優秀発表賞 1 名、優秀発表賞 3 名を表彰。                                                                                                                                                                                              |
| 幹事会の開催     |                           | 幹事会の会合: 4 回、メール会議: 適宜                                                                                                                                                                                                                                               |
| 他団体との交流    |                           | 応用生態工学会名古屋、ため池の自然研究会の協賛を得て談話会 (前述) を実施。研究発表会などの行事は相互に周知。                                                                                                                                                                                                            |

## 2) 2018 年度環境影響調査報告: 松本社会貢献担当 (代理: 田代事業担当)

次の研究集会や報告会で御嶽山における調査成果を発表しました。

- ・ The 8th EAFES（東アジア生態学会連合国際会議）でのシンポジウム  
 “Aquatic ecosystem of inorganic acidification in Japanese volcano area  
 – The Case Study in Mt. Ontake erupted in 2014 -”  
 （4/22（日）13:30～15:30、名大）の企画・実施
- ・ 応用生態工学会第22回大会での自由集会  
 「御嶽山麓に見られる強酸性水，崩壊地形，火山噴出物と生物の営み」  
 （9/21（金）14:00～16:00、東工大）の実施（陸の水 No.81 参照）

3) 2018 年度論文集の編集状況：野崎編集委員長

陸の水第八論文集（No.80）は 2018 年 11 月に発行しました。

4) 2018 年度会計報告：大八木会計担当

2018 年の収支の状況を以下の通り報告し、承認されました。

- ・ 会費の収入減は、過年度分の会費徴収が遅れているため。年度内に徴収予定。

2018 年度予算決算書（2018.01.01～2018.12.31）

[収入]

| 費目     | 2018 年度予算 | 2018 年度決算 | 備考                                               |
|--------|-----------|-----------|--------------------------------------------------|
| 前年度繰越金 | 415,711   | 415,711   |                                                  |
| 会費収入   | 169,000   | 93,000    | 一般 2000 円、学生 1000 円、家族 3000 円、団体 4000 円（過年度分を含む） |
| 雑収入    | 409,500   | 62,030    | 教科書印税 56,030 円、論文集など                             |
| 寄付金    | 0         | 18,150    |                                                  |
| 利子     | 5         | 2         |                                                  |
| 総計     | 994,216   | 588,893   |                                                  |

[支出]

| 費目         | 2018 年度予算 | 2018 年度決算 | 備考                        |
|------------|-----------|-----------|---------------------------|
| 郵送料        | 10,000    | 0         | 庶務・会計に係る通信費               |
| ニュースレター発行費 | 30,000    | 18,150    | 陸の水の送料                    |
| 広報費        | 20,000    | 14,142    | インターネット、土木学会継続教育（CPD）制度登録 |
| 事業費        | 230,000   | 115,000   | 助成金 2 件、総会等補助             |
| 論文集発行費     | 400,000   | 398,952   | 論文集印刷代                    |
| 雑費         | 5,000     | 1,728     | 振込み手数料など                  |
| 予備費        | 299,216   | 21,630    | 幹事交通費等                    |
| 総計         | 994,216   | 569,602   | 次年度繰越金 19291 円            |

5) 2018 年度会計監査報告：新実会計監査

決算報告書について新実会計監査より監査結果が報告され、承認されました。

## 6. 審議事項

## 1) 2019年度事業計画：田代事業担当

以下の通り報告し、承認されました。

1. 「陸の水」第九論文集の発行は後述の通り、見送ることとなった。
2. ニュースレター「陸の水」の発行：年間3号  
7月（No.83）、12月（No.84）、3月（No.85）
3. サマースクールの開催（8月）
4. 談話会の開催：年間2回（時期未定）  
※土木学会継続教育（CPD）制度のプログラム（2.0単位）として実施予定  
※応用生態工学会名古屋、ため池の自然研究会の協賛
5. 見学会の開催：年間1回（時期未定）
6. 総会・研究発表会の開催（2・3月）
7. 一般研究助成（原則、助成総額15万円以内。一件当たりの上限は5万円まで）
8. 学生発表賞の授与（研究発表会にて優秀発表者を表彰）
9. 活動報告（HPの更新、ML・Facebook、研究発表会の要旨の公開）
10. 「陸の水」論文集・教科書販売：  
※論文集は2000円、  
※教科書『身近な水の環境科学・測定実習編』は定価2,700円（税別）を2,500円
11. 社会貢献  
※2015年度から実施してきた「御嶽山噴火影響調査」は“地域”活動として継続  
※2019年度から、他地域の陸水環境に関する研究と連携し展開する“広域連携”を創設
12. 他学会・他の研究会との交流および共催・協力行事の実施
13. 幹事会の開催
14. その他

など

## 2) 次期幹事：井上会長

以下の通り報告し、承認されました。

## 新執行部について

|             |                       |       |
|-------------|-----------------------|-------|
| 会長          | 内田 臣一（愛知工業大学）         | 転任3年目 |
| 副会長         | 山本 敏哉（豊田市矢作川研究所）      | 新任    |
| 庶務担当        | 須田 ひろ実（株式会社ニック環境システム） | 留任3年目 |
| 会計担当        | 宇佐見 亜希子（愛知工業大学）       | 新任    |
| 事業担当        | 椿 涼太（名古屋大学）           | 新任    |
| 社会貢献(地域)    | 松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校）     | 留任3年目 |
| 社会貢献(広域連携)* | 井上 祥一郎（株式会社名邦テクノ）     | 転任3年目 |
| 陸の水担当       | 末吉 正尚（土木研究所）          | 留任3年目 |
| 助成金担当       | 大八木 麻希（四日市大学）         | 転任4年目 |
| 広報HP担当      | 吉成 暁（いであ株式会社）         | 留任4年目 |
| 会計監査        | 田代 喬（名古屋大学）           | 転任5年目 |
| 論文集編集委員長    | 野崎 健太郎（椋山女学園大学）       | 留任    |

- ※任期は1期2ヵ年。再任は妨げない。\*は新規配置（予定）の役員。  
 ※副会長は会長を補佐するとともに、次期会長を担う。  
 ※吉成幹事、末吉幹事、須田幹事、松本幹事には留任を快諾いただいた。  
 ※戸田幹事（2015-2018年度）、新実幹事（2014-2018年度）は退任される。  
 ※持続的運営の実現のため、3期以上の継続は避けて新任役員募集に努める。

### 3) 2019年度予算案（資料2）：大八木会計担当幹事

2019年の予算案を以下の通り報告し、承認されました。

#### 2019年度予算案（2019.01.01～2019.12.31）

##### [収入]

| 費目      | 2019年度予算 | 備考                                              |
|---------|----------|-------------------------------------------------|
| 前年度繰越金  | 19,291   |                                                 |
| 当年度会費収入 | 159,000  | 会員 81（一般会員 80、団体 1）<br>※一般会員の中には、学生会員および家族会員を含む |
| 雑収入     | 144,000  | 論文集・教科書販売（50,000 円）、別刷代（94,000 円、Vol.80）        |
| 寄付金     | 0        |                                                 |
| その他     | 2        | 利子                                              |
| 総計      | 322,293  |                                                 |

##### [支出]

| 費目         | 2019年度予算 | 備考                           |
|------------|----------|------------------------------|
| 郵送料        | 10,000   | 庶務・会計に係る通信費                  |
| ニュースレター発行費 | 20,000   | 陸の水の送料、封筒・切手代など              |
| 事業費        | 250,000  | 総会等補助、研究助成、談話会等の講師謝礼、社会貢献    |
| 広報費        | 25,000   | インターネット、土木学会継続教育（CPD）制度プログラム |
| 雑費         | 3,000    | 振込み手数料など                     |
| その他        | 14,293   | 幹事会交通費等                      |
| 総計         | 322,293  |                              |

### 4) 「陸の水」第九論文集2019年度の発行：野崎編集委員長

2019年度は発行を見送り、2020年度に「陸の水」第九論文集を発行すること、今後は2年に一度のペースで発行を続ける予定であることが報告され、承認されました。

### 5) 一般研究助成：戸田助成金担当

昨年度と同様の条件（1件あたりの上限額を5万、総額を15万、旅費の割合を50%未満）で今年度の募集を開始し、応募者の地域の偏りをなくするため他地域での広報



に力を入れる旨が報告され、承認されました。

## 7. その他

### 1) 日本陸水学会東海支部会の名称変更について：井上会長

日本陸水学会本会から「日本陸水学会東海支部会」の名称変更の要請をうけたことが井上会長より報告された。理由は支部会が正式には日本陸水学会下部組織ではないことがあり、他の支部にも同様の要請がされている。現在の部会の英語名も「The Tokai Branch of the Japanese Society of Limnology」と下部組織であることが強調される名称となっている。

⇒協議の結果、新年度の次期執行部において対応を検討することとなった。

### 2) 教科書「身近な水の環境科学」改訂について

日本陸水学会東海支部会（編）2010年出版の「身近な水の環境科学」の改定要望をうけ、野崎幹事を中心に検討していく方向性が確認された。

## 8. 議長の解任

## 9. 閉会

内田臣一次期会長より次年度の運営方針が説明され、活動への協力が呼びかけられた。

以上

# 第 33 回東海陸水談話会報告

## 「なぜ日本の川では養殖イワナを放流し続けるのか？ ～持続可能な遊漁資源管理を考える～」

2019年1月25日開催の第33回東海陸水談話会に名城大学の谷口義則准教授をお招きし、イワナ放流を中心とした持続可能な遊漁資源管理に関してご講演をいただきました。谷口先生から講演概要を頂きましたので、以下にご報告します。

日時：2019年1月25日（金） 18時～20時

場所：愛知工業大学 本山キャンパス 2階多目的室

講演者：名城大学准教授 谷口義則 先生

日本と米国は河川・湖沼を対象とする内水面遊漁管理において異なるアプローチを展開してきた。日本では、管理は主に河川規模で漁業協同組合（以下、漁協）によって行われ、通常、遊漁資源管理の知識を有する専門家がフルタイムでこれに携わることは稀である。反対に、米国には漁協に該当する組織は存在せず、遊漁資源は各州政府単位で管理され、多くの州で **State Department of Game and Fish** と称される機関により、狩猟・遊漁管理の専門知識を有する多数の科学者が調査、研究および管理実務に携わっている。この結果、日本では漁協は地域に根ざす小規模グループである傾向が強く、かつ小規模な空間スケールで管理が行われ、生物学者の雇用や広範なデータ収集業務はほとんど行われていない。他方、米国では州規模の空間スケールで意

思決定を行うことを可能にする公的財産権哲学が反映される。大空間スケールで資源管理源管理が運用されるため、財政的資源も潤沢で、同時にある水系での意思決定が隣接する水系にも影響を及ぼすため景観レベルの管理視点が提供されやすい。また、日本では漁協が大がかりな生息地改良プロジェクトに取り組むのは難しいが、米国ではこれは州管理機関の主要な活動の1つである。

日本の漁協は、釣り人口の著しい減少と遊漁券収入の減少、それに伴う財政基盤の脆弱化、組合員の減少と高齢化による管理の困難さ、さらには義務放流が課せられることによる養殖魚放流依存の「釣り堀式」の伝統的な継続等、多くの問題がある。しかし、より小さな空間スケールで管理・運営が行われることにより、米国に比べて、釣獲制限や遊漁料等のルールを比較的迅速に変更することが可能である。また、組合員は地元の河川に関する知識を有し、愛着を持って活動するため、監視の目も行き届きやすく、環境を守るコミュニティ創出にも寄与している。以上に述べたような両国間の相違点に加えて、キャッチ・アンド・リリースの普及度合い、遊漁規則の種類、放流方法等においても異なっているが、いくつか共通の課題もある。すなわち、両国共に子供や若者の自然活動への関心の低下に起因する釣り人口の減少、在来魚類の保全を図りながらも外来魚（国内・国外）を利用した遊漁機会の提供等の矛盾や困難な課題に直面している。

第33回 東海陸水談話会

なぜ日本の川では養殖イワナを放流し続けるのか?  
~持続可能な遊漁資源管理を考える~

名城大学  
谷口 義則 准教授

1996年 フォイオミグ大学大学院修士課程修了 Master of Science  
1998年 北海道大学大学院修士課程修了 博士(地球環境科学)  
1999年 山口県立大学大学院修士課程修了 博士(環境科学)  
2006年 名城大学理工学部教授  
専門分野: 生態学

2019年  
1月25日(金)  
18時~20時  
愛知工業大学 本山キャンパス2階多目的室  
<http://www.aist.ac.jp/access/motoyam>

参加無料 事前申込不要 会場に直接お越しください

本談話会は、土木学会継続教育(CPD)制度のプログラム(2.0単位)に認定されます。  
認定番号: JSCE18-1441 2.0単位

※講演の撮影・録音はご遠慮ください。  
※駐車場はありません。必ず公共交通機関をご利用ください。  
★お問い合わせ: 日本陸水学会東海支部会事務局 谷口 義則  
(名古屋大学誠意連携研究センター副代表、E-mail: [itsushiro@nagoya-u.jp](mailto:itsushiro@nagoya-u.jp))  
日本陸水学会東海支部会 <http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp>



写真 1. 谷口先生による講演



写真 2. 講演後の質疑応答

## 2019 年度「研究助成」の募集案内

次年度の研究助成を引き続き募集しております。水辺環境を対象とした、生物・化学・地学・社会・地理・歴史・環境その他あらゆる探求の取り組みに対して助成を行います。会員以外の方も応募可能ですので、周囲の方々にも周知して頂けると幸いです。

問合せ先：日本陸水学会東海支部会（研究助成担当）

四日市大学 大八木麻季（oyagi@yokkaichi-u.ac.jp）

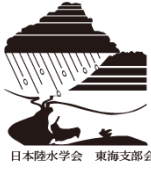


小学、中学、高校の部活動などからの応募を優先して採択します

アマチュア・若手研究者への調査・研究の奨励

2019年度 日本陸水学会 東海支部会

研究助成募集



**趣旨** 日本陸水学会東海支部会では、「水辺環境を対象とした、生物・化学・地学・社会・地理・歴史・環境その他のあらゆる探求の取り組み」に対してアマチュア・若手研究者の調査・研究を奨励するために、以下のような研究助成を行います

**助成対象となる調査・研究の分野**  
陸水環境を対象とした自然科学・人文社会科学・環境教育の実践および教材研究など

**募集対象者** アマチュア・若手研究者および研究グループなど

**助成金額** 申請上限5万円で5件以内の助成を行います  
※5万円分の予算まで申請可能ですが、申請内容に応じて減額して支給する場合があります

**被助成者の義務** 調査・研究は年度内に終了し、その後1年以内に、当支部会研究発表会あるいは、支部会ニュースレター誌上での成果公表をしていただきます

**応募方法** 以下の項目を含んだ申請書類（A4版、手書き可、当支部会様式使用可）を作成してください

- 1) 研究題目、およびキーワード
- 2) 申請者（個人の氏名、またはグループ名）と連絡先
- 3) 調査・研究課題の内容（1000-1200字程度）
- 4) 助成金の支出予算案（項目ごとに千円単位で）  
例：用品費（備品、消耗品）、調査費（成果発表のための学会・研究会参加旅費を含めても構いませんが、調査費以外は申請総額の1/2を超えないようにしてください）、謝金（アルバイト代）など。※謝金については妥当性のないものは認められません
- 5) 申請代表者の連絡先（電子メール希望の場合はアドレス）明記のこと

※様式は、 <http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/> からダウンロードできます

**【注意】**

- ・大学、研究機関に所属していない個人・グループ（小中高校の関係者など）を優先します
- ・大学、研究機関に所属する研究者、学生も応募できます
- ・大学（院）生の方は、卒業研究、修士・博士研究の一部内容について申請しても構いません
- ・営利を目的とする調査・研究に対しては助成を行いません
- ・当支部会員でなくても応募できます
- ・応募、採択の機会に、ぜひ当支部会への入会をお願いします

**応募締切**

5月20日（月）、（郵送の場合は消印有効）。  
※下記まで郵送または電子メールでお申し込みください。

■ 応募・問い合わせ先

日本陸水学会 東海支部会（研究助成担当）

〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200

四日市大学 環境情報学部 大八木麻希（宛）

E-mail: [oyagi@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:oyagi@yokkaichi-u.ac.jp)

## 「陸の水論文集 2019/2020 年」への投稿のご案内

野崎健太郎（陸の水論文集2019/2020年 編集委員長）

日本陸水学会東海支部会の機関誌である「陸の水（Rikunomizu: Limnology in Tokai Region of Japan）」は、ニューズレターと論文集の形態で発行されています。論文集は、支部会発足 10 周年にあたる 2010 年に 43 号として初めて発行され、昨年末には、8 冊目になる 80 号（2017/2018 年合冊）が発行されました。本論文集は、支部会 web site で全文が公開され、名古屋大学（工学部・農学部）、静岡大学（浜松）、三重大学（中央）、京都大学（生態学研究センター）、筑波大学（中央）の各図書館にも収蔵されています。投稿・執筆規程にあるように、東海地域の陸水情報をきちんと記載していくことを目的にしており、通常の学会誌・学術雑誌とは異なる存在を目指しています。

次回の発行は、2020 年 4 月～5 月を目安にしています。そこで、会員のみならずから投稿を募ります。投稿をお考えの方は、以下の日程に沿って原稿をご用意下さい。

### 2019 年 7 月 31 日：投稿申込締切り

投稿をお考えの方は、①題名、②著者、③審査区分（論文・報告）を編集委員長まで E-mail、電話、手紙等で連絡して下さい。

### 2019 年 12 月 31 日：投稿締切り

投稿・執筆規程に従い、原稿を完成させて編集委員長まで送って下さい。E-mail による添付ファイルの投稿で問題ありません。なお、英文原稿の場合は、事前に英文校閲を受け、その結果を添付して下さい。

### 2020 年 1 月～3 月：審査（査読）期間

皆様のご投稿をお待ちしております。投稿・執筆規程は、これまでに発行された論文集の巻末に掲載されています。新しく入会された方には別途 PDF で送りますので、投稿を考えておられる方は、編集委員長までご一報下さい。

編集委員長の連絡先

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町 17-3 椋山女学園大学教育学部

電話：952-781-4458（研究室）

E-mail：ken@sugiyama-u.ac.jp

---

## 「陸の水論文集 2019/2020 年」発行に向けてのご寄付のお願い

野崎健太郎（陸の水論文集2019/2020年 編集委員長）

論文集の発行に向けて、会員の皆様からの寄付を募りたいと考えております。東海地域の陸水情報を蓄積していくために、ぜひご協力をお願いいたします。1口2,000円（会費1年分と同額です）を基本とさせていただきますが、少額（ワンコイン）でも、太っ腹でも、心の価値は同額です。ぜひご寄付をお待ちしております。賛同下さる方は、以下の支部会口座への振り込みをお願いいたします。振込後、編集委員長にご一報頂ければ、私から会計幹事に連絡いたします。

### <ゆうちょ銀行からお振込みの場合>

記号：12120-2

番号：73385891

名前：日本陸水学会東海支部会

### <他の金融機関からお振込みの場合>

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：二一八（読みニイチハチ）

店番：218

預金種目：普通預金

口座番号：7338589

カナ氏名（受取人名）：ニホンリクスイガツカイトウカイシブカイ

---

### 編集委員長の連絡先

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町 17-3 椋山女学園大学教育学部

電話：952-781-4458（研究室）

E-mail：ken@sugiyama-u.ac.jp

---



## お知らせ 会費納入について

納入方法として、下記「ゆうちょ銀行」への振込、もしくは談話会や研究発表会などでの直接的なお支払いも受け付けております。ゆうちょ口座から通帳かカードで ATM 振込をご利用いただくと手数料無料となります(ATM 送金料金が無料となるサービス期間は現在も継続中)。会費納入状況が不明な場合は事務局までご照会ください。2 年度分の会費が未納の方は、規約に従い、翌年度には自動的に退会となりますのでご承知おきください。その際も、未納会費 2 年分のお支払いをお願いしております。

納入が確認できた会員のみ、論文集を送付することが総会で承認されています。2018 年度は、2017/2018 年の合併号が送付されました。2019 年度は発行が見送られる予定です。

「陸の水論文集 2019/2020 年発行に向けてのご寄付のお願い」にもありますように、会員数の減少に伴い論文集発行の予算確保も難しい状況となっております。今後は 2 年に一度の発行となりますが、会員の皆様にも現状にご理解頂き、確実な会費の納入をお願いいたします。退会をご希望の方は、下記「入会及び大会の手続きについて」を参照のうえ確実な手続きをお願いいたします。

### <年会費>

一般 2,000 円、学生（大学生以上）1,000 円、高校生以下は無料、  
団体 4,000 円、家族 3,000 円

### <ゆうちょ銀行からお振込みの場合>

記号：12120-2 番号：73385891

名前：日本陸水学会東海支部会

### <他の金融機関からお振込みの場合>

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：二一八（読み ニイチハチ） 店番：218

預金種目：普通預金 口座番号：7338589

カナ氏名（受取人名）：ニホンリクスイガツカイトウカイシブカイ

\*\*\*\*\*

## 入会および退会の手続きについて

### ■ 入会手続き

- ① 当会の HP にある入会申込書に必要事項を記入
- ② 申込先は会長宛て※とする（その後、担当幹事へ情報を共有）

### ■ 退会手続き

- ① 退会する旨、会長宛て※に連絡（その後、担当幹事へ情報を共有）
- 3 月は学生の方が卒業されるので、教員の方は特にご配慮願います。  
※2019 年度は、吉成（[rikusui-tokai@rikusui-tokai.sakura.ne.jp](mailto:rikusui-tokai@rikusui-tokai.sakura.ne.jp)）まで



## 会長・幹事退任のあいさつ

### 会長退任のあいさつ、ならびに新幹事職『地域貢献：広域』の活動について

前会長・次期地域貢献（広域連携）担当：井上祥一郎（株式会社名邦テクノ）

2年前の総会前に、田代さんから突然、次期会長への推薦の声がありますがという電話を頂きました。研究者中心の日本陸水学会東海支部会のトップに、高齢とはいえ技術者の私に声が掛かることは、将に青天の霹靂でした。暫時考えましたが、元々楽天的な性格で、名古屋大学で全国大会があった時も楽しく協力できたし、とお引き受けしました。総会は温泉が多い、支部会員には呑み仲間も多い、幹事会のあとは懇親の場があるという魅力もありました。会長を（研究者が）サポートする副会長制度新設も同時に進められており、ご配慮を感じました。表舞台の本会の田沢湖大会では、森・里・海の連携について、技術中心の発表もさせて貰いました。ありがとうございました。

水産物の危機的減産が続いており「水至清則無魚」が盛んに言われます。「濁ったきれいな海、澄んだ汚れた海」と呼ばれる干満差の特に大きな有明海周辺だけには通用しますが、私はこれは続く「人至察則無徒」の単なる前振りと思っています。「察」を自覚して人間関係を楽しみたいものです。

海藻学者の故横浜康則さんは、「光はごはん」という言葉を残されました。有明海では濁りが光をコントロールし、その環境に特有な生態系が作られました。光が水底まで届く浅場では、付着微細藻類の役割が大きいと言います。餌として寄与する他、底層への酸素供給も担います。水底の酸素濃度を云々する時代に、光の無視は科学に逆行します。重要微細藻類であるケイ藻生産量を左右する、ケイ素・窒素・リンの収支を考えつつ、光への関心を無くさないようにしたいものです。

つづきまして、過日の日本陸水学会東海支部会総会で、事務局が提案し、承認された追加活動『地域貢献：広域』に関して、提案者として背景を述べておきたいと思います。

昨年、平成 30（2018）年、茨城県で開催された世界湖沼会議の折、豊かな湖沼の復活を目指す自治体連携の発足について、霞ヶ浦、諏訪湖、琵琶湖、中海、宍道湖を抱える茨城、長野、滋賀、鳥取、島根の 5 県の知事が発起人として署名した設立文書が公表されました。私は研究者ではありませんが、技術者として「流域環境修復実学」を目指して、宍道湖、諏訪湖に活動拠点をもち、琵琶湖に関しては、地元環境関連企業の技術顧問を務めています。各湖を訪問する機会も多く、地域の関係者との交流も少なくありません。

古川沼（岩手・陸前高田市）、琵琶湖、油が淵、庄内川河口の底質改善技術経験から、二枚貝資源の復活には、“衣食住”条件の同時並行的な解決が必要という考えに至りました。この考え方を、平成 29 年 9 月の陸水学会第 82 回田沢湖大会で『技術者が扱う森・川・海のつながり修復－内湾・湖内対策から流域対策へ－』と題して発表しました。“食”としてケイ藻を評価し、湧水量減少がケイ酸量減の原因で、雨水の浸透量の復元を始めとするケイ酸供給策が必要とする主張は、陸水学の永年の研究成果を基盤にしています。このように陸水学の研究成果を技術に取り込んで、自治体連携に協力することは意義のあることだと思い、“広域”地域貢献活動を提案した次第です。森林、上下水道、衛生工学、農業、水産、建設、環境、応用理学部門の技術士として、技術者への呼び掛けも考えています。

島根県は観光資源でもあるヤマトシジミの不漁に危機感を抱き、平成 24 年度から 6 年間、シジミ資源確保を主目的とした研究を行い、平成 30 年 3 月に「宍道湖保全再生協議

会研究概要報告書」を公表しました。自治体連携発足の8ヶ月前のことで、シジミ餌料の“ケイ藻”の優位性が、全4章13節中、6節に出ているのが特長です。“ケイ藻”がシジミの好適餌料という先行研究は、平成17年から3年を掛けて行われた、静岡県の戦略課題研究「快適空間『佐鳴湖』の創造」研究報告書の中にあります、静岡県立大学谷幸則准教授（当時）の研究成果で、島根県の研究にも招聘され執筆されています。

また、愛知県蒲郡での“アオサ”の大量発生に係る利用研究は、宍道湖、琵琶湖、諏訪湖における水草過繁茂問題の参考になる東海支部会地域で行われた技術情報です。東海支部会は、愛知、静岡、三重、岐阜の陸水関係者で組織されておりますが、東海4県（油が淵、浜名湖、佐鳴湖）の、自治体連携への関りはまだ調べておりません。

### 助成金担当退任のあいさつ

前助成金担当：戸田三津夫（静岡大学）

支部会と私の関わりは、2007年11月椋山女学園で開催された第8回談話会への参加が最初だったと記憶しています。その後、2008年2月の浜松市森の家での第11回研究発表会、2010年8月櫛田川下流域での第7回サマースクールへお邪魔し、この会のムードにすっかり魅了されてしまいました。それから頻繁にイベントに参加するようになり、幹事も務めさせて頂きました。今回は5年だったか6年だったかもう忘れてしまいましたが、日本陸水学会本会幹事会をお手伝いすることもあり、やっと卒業します。この間、いろいろな研究や人にも出会えて視野をずいぶん広げることができ、感謝しております。表向きは学生の「佐鳴湖」研究ネタでの参加ですが、佐久間ダム、水害、そして先日の蒲郡での谷口先生の発表に触発されてエネルギーミックス関連でも発信していこうと思います。根が「いちびり」で、つい余計なことを言うのですが、サマースクールや研究発表会の企画、助成金募集などで多少は支部会のお役に立ったのかな、と思っております。本会では年会（2020年秋の第85回大会）の開催地が未定だと聞いています。第77回名古屋大会からあまり間がないですが、ひょっとしたら東海地区開催がありえます。その節は、どうかよろしくとお願いするとともに、支部会をあげて大会を存分に楽しみませんか。

### 会計監査退任のあいさつ

前会計監査：新実智嗣（株式会社水地盤研究所）

もう10年以上も前から子供たちと一緒に東海支部会主催のサマースクールに参加し楽しんできました。ひょんなことから2014年から東海支部会の幹事として携わることになり主にサマースクールなどの行事の裏方を手伝ってきました。毎回楽しいアイデアを幹事の皆さんが企画してくれて私自身も興味深く楽しませていただきました。サマースクールに参加した子供たちも最初は知らない子同士で浮かない顔だったのが、最後のお別れときには一緒になって笑い合っただけで元気にたくましく走り回っている姿が印象的でした。

気がつけば5年間いろいろなことが経験できて大変有意義な時間を過ごすことができました。感謝の気持ちで一杯です。そして忘れてはいけないのが最後まで付き合ってくれた我が家の子供たちです。幼い頃から毎回サマースクールに同行してくれて他の子供たちの面倒をみて私を支えてくれました。ありがとう。きっと次の世代の子供たちにも受け継がれていくことでしょう。これからも魅力ある東海支部会の発展を願って退任のあいさつとさせていただきます。5年間ありがとうございました。

---

## 会長・幹事就任のあいさつ

### 会長就任のあいさつ

会長：内田臣一（愛知工業大学）

この支部会では長らく、気が向いたときだけ研究発表会やサマースクール、談話会に少しだけ参加する、という不良会員でしたが、2年前から副会長を務めることになり、今回、その際の約束だった会長を務めることになりました。上に井上祥一郎前会長が書かれている通り、この会の会長は心の準備ができていない人に急をお願いすることも今まで多々あったようですが、次期会長予定として副会長の職を設けたことは、心の準備という点では引き受けやすくなると感謝しています。次期は山本敏哉副会長、よろしくお願いします。

さて、私はもともと水生昆虫カワゲラ類の分類を専門としていたのですが、学生の頃から陸水学会にはときどき参加させていただき、学会が分野横断的な性格を持っていることにずっと親近感を持っていました。そのおかげで、最初の職場の滋賀県立琵琶湖博物館から畑違いの現職場 愛知工業大学土木工学科へ転職でき、転職後も特に大きな精神的ストレスもなく教育・研究ができているのかもしれませんが（あるいは、単に雑な性格のため？）。この支部会も、分野横断的な発想を大事にしている人が多いことはいつも感じていて、それを楽しんでいました。

これから会長を務めることになりますが、会の皆さんの分野横断的な発想を含めた自由な発想を伸ばしていくことに少しでもお役に立てれば幸いです。会員の皆さん、幹事の皆さん、よろしくお願いします。

### 副会長就任のあいさつ

副会長：山本敏哉（豊田市矢作川研究所）

新幹事のメンバーとなりました山本です。私は1990年代半ばに琵琶湖の水生植物帯でコイ科魚類の初期生態を、2000年頃から現在まで矢作川でアユをはじめとする淡水魚類の保全生態学的な研究を手がけてきました。いまの所属先では、研究成果をいかに公共事業等の実践に結びつけていくかが最も重視されていまして、なかなか実践に結びつかないと悩みながらも有意義に研究に励んでいます。最近は様々な業務に追われて、外部の情報を得る機会が限られてしまっていたのですが、これを機に会員の皆さまと交流を深め、地域の陸水学を学びながら共に自己研鑽していきたいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。

### 会計担当就任のあいさつ

会計担当：宇佐見亜希子（愛知工業大学）

今年度より新幹事として、会計を担当いたします宇佐見亜希子です。以前は水処理業務をしており、微生物を相手に水を綺麗にする大変さを痛感する日々を送っていました。現在は、御嶽山周辺河川の研究に没頭しています。東海支部会には、学生の頃に初めて口頭発表をさせていただき、その後も研究発表やサマースクールなど貴重な経験と、様々は専門分野の方々との出会いなど、大変お世話になっています。この度、初めての幹事であり、ご迷惑をおかけすると思いますが、ご助言をいただきながら努めていきますので、どうぞ

よろしくお願いいたします。

### 事業担当就任のあいさつ

事業担当：椿涼太（名古屋大学）

今年度より新幹事として、事業担当の幹事をさせていただくことになりました椿涼太です。土木工学・河川工学の分野で、河川に関わってきましたが、洪水流の可視化計測や、真四角な断面の実験水路での水の流れの計測などから研究を開始したこともあり、陸水学会東海支部の活動は視点をぐぐっと広げる良い機会をいただいていると感じています。本会がさらに地域に根付き、陸水への関心を増やし、また陸水の状態や循環を「良く」していくことに、まずは事業担当として貢献ができればと考えています。お力添えのほどよろしくお願いいたします。

### 助成金担当就任のあいさつ

助成金担当：大八木 麻希（四日市大学）

今年度から東海地域の研究助成を行う担当となりました。前年度までの事務的な会計業務とは異なりますが、これまでの支部会の柱の一つでもある重要な事業を継続・発展していけるよう取り組んでまいります。応募は静岡県内からが多く、東海地域で偏っている現状です。私の職場の地の利を生かし三重県、4年間在住していた地の利を生かして岐阜県、多くの会員が在住している愛知県と積極的にアプローチし少しでも多くの方に周知し、より良い研究に助成が行えるように動いてまいりたいと考えております。

他の幹事の方々と連携し、支部会の発展に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

### 会計監査就任のあいさつ

会計監査：田代喬（名古屋大学）

2015年度から新設の社会貢献（現・社会貢献（地域））担当の幹事を拝命して以降、2017年度に事業担当に転任し、今度は会計監事を務めさせていただくことになりました。以前の登板（2007～2008年度）を含め、都合7年目のお務めとなります。再任のきっかけとなった、「2014年御嶽山噴火が陸水環境に及ぼす影響に関する調査」を通じた社会貢献は道半ばですが、2017年度から担当されてきた松本幹事の尽力により研究としては活況を呈してきた感があります（各自、それぞれのペース？で頑張っています！）。

また、事業担当として取り組んだ、談話会のCPDプログラム認定の取得、企画行事の相互周知を通じた応用生態工学会名古屋やため池の自然研究会など関連団体との連携により、少しずつですが当支部会の活動が周辺の方々に認知されてきた気も致します（新規会員獲得まではもう一歩でしょうか？）。

専門は、河川を扱う水工学、最近では水防災を本務とする「畑違い」の人間ですが、日頃より会員の皆様には温かく受け入れてくださり、誠にありがとうございます。今後もこうした活動への注力支援を継続してまいりたいと思いますので、もうあと一期？（と信じますが）、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

---

(編集後記)

2018年度最後のニュースレターになります。私がこの役職を拝命して、はや2年が経ってしまいました。本来であれば、2年任期ということで退任となる予定ではおりましたが、引き続きもう1年？務めさせていただくことになりました。

今年度の体制は幹事職全員留任でやってきましたが、次年度からは井上会長から内田会長へと代わり、山本副会長、会計担当宇佐見さん、事業担当椿さんを加えた新体制が発足します。総会でも議題にあがりました東海支部会の名称変更など、議論すべき事項も多々ありますので、新体制の皆様で東海支部会のさらなる発展を心がけていきたいところです。また、2年間という短い間でしたが、戸田さん、新実さんには大変お世話になりました。今後とも支部会会員として末永くよろしくお願いいたします。

さて、今年度の研究発表会・総会は、蒲郡市で開催されました。蒲郡市は渥美湾に面した海の街で、温泉も多く湧出する観光名所です。見学会でも訪れた竹島水族館は、その素晴らしい集客力で、テレビや様々な雑誌で話題となっており、私も一度は行ってみたいと思っていました。詳細は研究発表会報告で述べさせて頂きましたが、評判通りの展示の工夫で、マニアックな魚類の生態などためになる情報が盛りだくさんでした。生命の海科学館も、化石の見せ方や隕石の重さ体験など興味を惹くための様々な工夫がされており、子供から大人まで多くの方々が楽しんでおられました。

研究発表会は、昨年度以上に多様化した研究分野での発表が行われ、普段はあまり触れることのない最新知見を得ることもでき、個人的に非常に満足した会でした。こちらも詳細は報告文で述べさせて頂いておりますので、参加できなかった方はぜひお読みください。特に優秀賞を受賞された皆さんと助成報告をしに来てくれた岐山高校生物部の研究は、いずれも陸水環境の重要な現象・問題に対して何かしらの答えを示した素晴らしい研究だったと思います。私も常に新規性のあるアイデアや創意工夫のあるアプローチを忘れずに研究に取り組んでいきたいと改めて思われました。